



北海道再生!!

— 人に温かい道政 —

道政ニュース

高橋とおる

発行 2018年春～夏号 No.60
高橋とおる事務所

〈自宅〉函館市美原4丁目2番14号
TEL・FAX 47-0867



世界遺産登録を目指す大船遺跡(函館市大船町)

陰り始めた高橋道政

今回の道議会は、高橋はるみ知事四期目最後の予算編成となります。

知事が四期で引退するのか五期目に挑むのかは別として、就任から一六年目となり、この間、一五回の予算編成を行ってきた結果、知事の思い描いてきた北海道に、そして道民が託した北海道になつてきたのか、問われます。

私たち党派は、政策審議会を中心に高橋道政四期の評価・検証作業を各般に行っていますが、残念ながら合格点には遠く及ばないと判断せざるを得ない結果となりそうです。

一方、これまで高橋知事を支えてきた自民党派にも変化が現れています。議長経験者など、ベテランの議員が公然と知事の批判を口にしたたり、提案した議案にも異を唱えたりと、今まではハッキリとした違いが表面化しています。

この第一回定例会においても、目に見える形で知事が提出した議案に不満の態度を表しました。

議会最終日に、特別職の人事に関する議案が提出され、知事が提案主旨を述べた直後、自民党の議員席がざわめきました。

ベテラン席から一人二人と本会議場を退席しはじめ、最終的には自民党四九人中一人一人が退席、実に二割の与党議員が知事の人事案に対し採決を拒否したのです。JR北海道の赤字路線問題に関わり、国との窓口を務めてきた山谷筆頭副知事の退任が含まれる人事案は、事前に与党に相談があったものと思えますが、知事は自民党の意向を無視して人事案を強行し、これに対し、自民党道連の幹部を中心にしたいわゆる重鎮達が退席しました。

知事は退席を知りつつ強行したのか、いずれにしても五選に赤信号が灯り始めたことだけは確かです。

平成三〇年度予算要望

知事の新年度予算査定が終盤となった一月二十九日、民進党・道民連合会派として「三〇年度北海道予算編成及び道政執行に関する要望・提言」を知事に申し入れました。

主な項目は、公共交通・

社会基盤の確保、国際交渉による地域への影響の阻止、医療や福祉の確保・充実、教育環境の充実、農林水産業の強化、地域資源を活かす産業の振興、アイヌ政策の展開、北方領土返還対策



高橋はるみ知事への申入れ(1/29)

再生可能エネルギーへの取り組みの加速、道の行財政運営など具体的に四九項目に及ぶ要望となりましたが知事は会派の申し入れに対し、「重く受け止める」とし、詳しくは提案する予算案で示すと回答しました。

道議会第一回定例会

第一回定例道議会は、二月二日に開会し、平成三〇年度道予算、「北海道障

がい者の意思疎通の総合的な支援に関する条例」そして「北海道言語としての手話の認識の普及等に関する条例」、「犯罪被害者等支援条例」、「北海道自転車条例(議員提案)」、「住宅宿泊事業の実施の制限に関する条例(民泊条例)」並びに「旧優生保護法において実施された優生手術に対する補償等の早期解決を求める意見書」などを可決し、三月二〇日に閉会しました。

会派の代表質問では、知

事の政治姿勢、公共交通対策、行財政運営、医療・福祉課題、一次産業の振興、雇用対策、一般会計予算などについて質疑しました。

主な質疑内容について

道の新年度予算は一般会計二兆七、四九八億円、特別会計一兆一、一八六億円の合計三兆八、六八四億円が計上されました。

一般会計は前年度当初予算比〇・一％減とほぼ横ばいですが、特別会計は国民健康保険の都道府県単位化に伴い、国保事業が五、〇〇億円規模で設置されたことなどから、同七二・六％の大幅増となりました。

一方、道税収入は伸び悩み、さらに地方交付税の減少が依然続き、道債への依存度が二年連続で上昇し、二三・九％となり、三〇年度末の道債残高見込みは五兆七、八〇〇億円と、なおも巨額であるなど危機的な状況が続く、綱渡りの財政運営が

続いていきます。

そうした中、知事は三〇年度予算の重点政策を「未来創生予算」と名付け、「人口減少の危機突破に向け、地域創生の成果を確たるものにする」としています。

しかし、この発想は、次々に目先ばかりを変え、迷走を重ねる政府の地方創生(人口減少対策)に翻弄される地域の思いとはかけ離れたものであり、就任以来一五年を経ても地域に足をつけず、中央ばかりに目が向く知事の道政運営の姿勢が反映されたものとなっております。

地域では、暮らしの基盤である医療、子育て・介護などが危機的な状況にあります。

また、日々の生活や産業に欠くことのできない公共交通が揺らいでいます。

特に、一昨年秋にJR北海道が表明した路線問題を巡る道の姿勢は、依然として主体性を欠いたままで一年近くが経過し、道民、地域の懸念は深まるばかりで

あり、さらに、高齢化の進展で、あらゆる分野での人手不足が加速し、医療・福祉・介護にとどまらず運輸交通や商業などを含む地域機能が失われつつあります。

提案された予算案では、こうした山積する課題への具体的で実効性のある対策が見えてきません。

会派は、本会議における代表質問・一般質問、予算特別委員会を通じて、JR路線問題をはじめ、人口減少対策、各分野での人材確保策、働き方改革への対応、観光施策や国際交渉への対処、エネルギー施策などについて論議を展開しました。

が、知事は、道民の先頭に立って北海道の未来を創り上げていく方向性すら示せず、難局を打破する意欲に欠けた答弁に終始しました。

残念ながら、こうした議論経過などから、会派は、三〇年度一般会計予算については組み替えを求める動議を提出し、採決において反対をいたしました。

また、日々の生活や産業に欠くことのできない公共交通が揺らいでいます。

特に、一昨年秋にJR北海道が表明した路線問題を巡る道の姿勢は、依然として主体性を欠いたままで一年近くが経過し、道民、地域の懸念は深まるばかりで

議会改革協議会を設置

過去二代にわたる議長、そして自民党会派の消極的な姿勢から設置が中断していましたが、昨年就任した正副議長が就任時に揃って「議会改革」を表明したことから、各派会長会議において設置を提案、紆余曲折はありましたが、今定例会での設置が実現しました。

この協議会（改革協）は全会派一致が原則となっていますが、残る任期が一年間と限られていることから、協議する議題によっては時間がかかることも想定されますが、まずは、各会派がそれぞれの改革事項を提出し、座長が課題を絞ることから始まり、具体的な協議に入ります。

座長が改革協の設置に消極的な自民党会派から選出されているため、議論の行方を危惧していますが、会派として目に見える改革に結びつける努力をして参ります。

障がい者の意思疎通と言語としての手話に関する二つの条例が可決成立

北海道ろうあ連盟の方々が望んでいた「北海道障がい者の意思疎通の総合的な支援に関する条例」と「北海道言語としての手話の認識の普及等に関する条例」が、本会議において満場一致で可決・成立いたしました。



関係者による記念写真(3/21)

手帳・触手話・指文字・指文字・筆記・手書き文字・拡大文字・口文字・重度心身障害者用伝達装置・絵画等の提示・身振り等の合図、ルビ・平易な又は具体的な表現等の形態の異なるものが数多く存在しますが、それらの意思疎通の総合的な支援を行う条例と、その

致で可決・成立いたしました。

この条例は、北海道ろうあ連盟の皆さんからの大きな要望が実を結んだ、正に北海道に住んでいる道民が望んだ条例の実現です。

二つの条例から成っており、それぞれ条例の前文でその主旨がうたわれていますが、障がい者の意思疎通の手段としては、点字・音声・手話・要約筆記・弱視

中の手話を言語として広く道民に認識してもらうこととその普及に関する施策の推進を目的とした条例とで成立しています。

条例の制定までには、北海道ろうあ連盟の皆さんの道議会や知事への熱意に満ちた積極的な要請があり、最終日には多くの関係者が本会議を傍聴、本会議終了後には議場において知事や正・副議長、各会派の関係者を囲んで記念撮影を行いました。

これからは、この条例を具体的に推進し、障がい者の意思疎通の妨げとなつていける社会的障壁を解消し、障がいの有無に関わらず全ての道民が共生する暮らしやすい社会実現に資するところに力を注がなければなりません。

縄文文化を世界遺産へ

「中空土偶」が北海道で唯一の国宝に指定されたこと

とから、約一万年もの間続いた縄文文化が再び注目されていきます。

遺跡群は北海道では函館市、千歳市、伊達市、洞爺湖町、森町、東北では青森県、岩手県、秋田県などに代表され、これまで北海道以外の各県議会には縄文文化推進議連が既に設置されていました。

函館市の大船遺跡、垣ノ島遺跡、森町の鷲ノ木遺跡を含む「縄文遺跡群」の発掘を契機に北海道と東北三県が協同でユネスコ世界遺産に登録しようという機運が高まりましたが、その運動母体が民間の組織と行政だけで、政治の後押しが無かったことから、昨年度議事各会派に呼びかけ、「縄文文化世界遺産推進議連（仮称）」を設立しようと試み

ました。しかし、当時は中央政界で与党を中心とした議連が動き始めるという理由で、道議会内における議連発足に待ったがかけられませんでした。

高橋とおるホームページ

私、高橋とおるが活動の中で感じる国政や道政等に関する想いを随時掲載しています。是非ご覧下さい。

<http://www.t-tooru.com/>

ご存じの通り昨年は、国の暫定リストから世界遺産への登録推薦には至らず、今年こそ、登録に向けて一層の活動が必要となっていくことから、再度の呼びかけを公明党議員と共に、行い、過日、道議会に議連が発足しました。

この議連には、函館市から顧問に平出陽子議員、会長に川尻秀之議員、副会長に私、幹事長に志賀谷隆議員が選出され、四月二三日に東京で開催される「縄文文化を世界遺産に！」総決起集会に参加し、さらに、今後も東北三県の議連と力を合わせて世界遺産登録推薦実現の活動を強めていきたいと思えます。

写真で見る主な活動

※詳しい活動報告はホームページに掲載しています。



第22回
函館地区連合女性委員会総会での挨拶
(12/19)



平成30年度予算に関わり民進党函館支部から工藤市長への要望
(12/21)



美原町会新年会でのもちつき (1/7)



「成人の日」街頭宣伝での演説 (1/8)



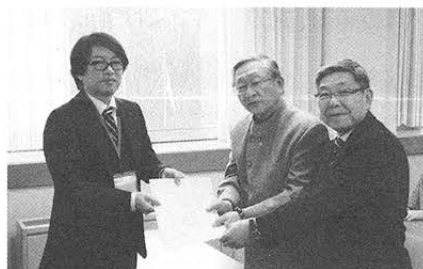
成田山真言寺の節分祭 (2/3)



高橋亨南茅部後援会新年会
南茅部後援会新年会での挨拶 (2/4)



「北方領土の日」返還アピール (2/8)



北海道ろうあ連盟・金原事務局長が来訪
(3/9)



戦争をさせない道南総がかり行動(3/25)

採決された決議・意見書

- ◎二〇二五年国際博覧会の誘致に関する決議
- 高齢者や若年成人等の消費者被害を防止・救済する実効的な消費者契約法改正を求める意見書
- 北海道・北東北の縄文遺跡群の世界遺産登録に向けた推薦に関する意見書
- 根室海峡域におけるロシア連邦トロール漁船に関する意見書
- 旧優生保護法において実施された優生手術に対する保証等の早期解決を求める意見書